

障害男性檻に20年超

兵庫 監禁容疑 父親を逮捕

兵庫県三田市に住む男性(42)が20年以上、自宅敷地内に設置された檻の中で生活させられていたことがわかり、県警は7日、父親の無職山崎喜胤容疑者(73)を監禁容疑で逮捕した。男性には精神疾患があるといわれ、山崎容疑者は「長男が

暴れるので監禁した」と容疑を認めている。一方、市は監禁を把握しながら4日間保護していなかった。

発表では、山崎容疑者は1月18日朝、19日夜、木製の檻(高さ約1.8メートル、幅約1.8メートル、奥行約90センチ)に長男を入れ、南京錠で鍵を

かけて監禁した疑い。長男に健康上の問題はないという。

長男は同22日、市に保護され、福祉施設に入所。その際、腰が曲がったままで、下半身は裸、檻の中にペットのトイレシートが敷かれていた。山崎容疑者は2

支援不十分 家族孤立しがち

障害のある子どもを長期間、監禁する心理について、カウンセリングなどを専門とする「こころぎふ臨床心理センター」(岐阜市)の長谷川博一・センター長(臨床心理学)は「家族が世間の目を気にしたり、恥ずかしいと思ったりし、身内だけで対処しようとしたのではないかと話す。

長谷川センター長によると、精神疾患や知的障害のある子どもを自宅に閉じ込める「私宅監置」は昔からあり、精神衛生法で1950年に禁止された。病院での治療が一般的になったが、国内では医師らによる家庭訪問や相談などの支援は十分ではなく、家族が孤立しがちだという。

三田市の対応については、「私宅監置などの隔離は人権上、治療上ともに不適切であり、早期に対応すべきだった」と指摘する。

監禁の状況



日に1度ほど、長男を出して食事を与えたり、風呂に入れたりしていたという。檻は大人がようやく入れるほどで、庭に立つプレハブ小屋(約2.4四方)の中に置かれていた。小屋にはエアコンやファンヒーター、扇風機、窓があった。市などによると、長男は1994年に市外から転入

し、山崎容疑者と妹、弟の4人暮らし。10歳代後半に、山崎容疑者が小屋を設置、中で生活させていたという。監禁は、山崎容疑者が今年1月16日、妻(1月に死去)の介護相談を福祉関係者にした際に明かした。連絡を受けた職員が同18日に自宅を訪問し、長男が檻に入れられているのを確認、福祉施設へ入所させることを決めた。19日に再訪し、入所が22日に決まったと説明した際も、檻に入れられたままだったが、予定通り22日に保護、入所させた。市は「暴力をふるった様子

などではなく、緊急性が低いと判断した」としている。長男には障害者手帳が発行されていたが、福祉サービスは受けておらず、市は事態に気づくきっかけがなかったとしている。

山崎容疑者の自宅近くに住む80歳代の女性は「たまに『わー、わー』と叫ぶ男性の声が聞こえていた。監禁なんて想像だにできなかった」と話した。

大阪府寝屋川市の民家では昨年12月、両親から「精神疾患があり、暴れる」として長期間、監禁された長女が死亡する事件があり、両親が保護責任者遺棄致死と監禁の罪で起訴された。